



7月に見直す

先週の学級日誌より。

*

▼6月25日(月) ●●

水泳がある理由がわからない一日でした。プールも新しくして、温水プールにしてほしかった。室内がよかった。

☆蒸し暑いよ最近 → んーまい棒

▼6月26日(火) ●●

スピーチ：皆緊張していた。古典：7限の方は日本史がなくなったため。温水プールに一票。

☆んーまい棒 → 浮き輪

▼6月27日(水) ●●

特にこれといって何もない1日でした。自分もそうだけど～体調崩している人が多いので、体調管理は大切だと思った。

☆浮き輪 → 笑えばいいと思うよ (to レイたん♥)

▼6月28日(木) ●●

速単の日は電車で寝られないので一日眠いです。プールからの皇居だけがんばろう!

☆笑えばいいと思うよ (to レイたん♥)
→ 寄り道

▼6月29日(金) ●●

今日~~も~~も全体的に楽しかった!! このクラスの一部の方々は色々ヤバいです。でも、面白いです。

☆寄り道 → 魑魅魍魎

*

面談の方は3分の2くらい終わった。中心な話題は、中間考査の結果と夏休みの予定

であるが、まあ、中間の話が中心になるのはやむを得ないだろう。というのも、中間は日比谷での初めての考査だったわけで、その結果が思わしくなかったとしても、その原因が認識できれば、まだまだ修正できる可能性があるからである。

3年後の大学入試のことを視野に入れると、日比谷に入学した時の成績(つまり受検の結果)と、日比谷卒業後の進路結果との間にはあまり相関関係がない。一方、一年生前期の中間・期末考査間の成績の変化と進路結果との間には、それなりの相関関係が見られるのである。つまり、中間考査が思わしくなくても、次の期末考査でいくらかでも挽回できた人は、進路希望を叶える確率が高くなるのである。これは、日比谷での勉強法を、つまり、3年後の入試を乗り越えるための力をつける勉強法を、期末までの間に身につけられたことが挽回に結びつくからだろう。

中間考査では、中学校あるいは塾の勉強の貯金で何とか乗り切ることができたり、4月当初のやる気てががんばった部分が何とか功を奏して持ちこたえられたりした人も、期末ではそうはいかなくなる。そこでは本当の勉強法が身についたかどうか問われることになるのである。逆にいえば、これからの生活で、自分なりの勉強法をもう一度見直し、点検して、確立することが重要だということだ。

中間で失敗したなど思うところがある人は、素直にそれを反省して、次に生かす工夫をすべきだろう。今がそのチャンスである。